

聖州新報

昭和三十一年四月廿九日

(四) 第一千四百七十六号

聖報歌壇

墓守も今日は居らざり鶴頭の盛れる墓地に兒の墓
同胞の墓いくつこの墓地も垣をこわしてとりひろ
げけり



聖報

排壇

金子秀雄

リオ水谷ト城

こぼろぎに往けばランプの驛

に出し

蟲と居て藤椅子の月脚に這ふ

この日頃丈夫に棉摘みする妻の頭までつく。の

泥ついた棉を集めて日にひろげたたいしさか

の白さにとどす

習ひ終へ日本讀本にバイオラの紅い花ひらはさ

めの妹

勝手場の戸口から出で月光に妻が皮むくマンジョ

トカ本木

月の夜にブラジル人が聖歌うたふブレージョむか

ひよ秋の風吹く

神志那キヌエ

洗濯のナポンの泡立ら悪しきにも想ひ走れり病み

て臥すすすに

子が病癒えてうれしも學校のカバンの整理とともに

手傳ふ

いつの日に鏡を見しぞ息かけて髪に拭きるさま

しき心

初錦しまろき清さみ拂にダリヤと東ね今朝ささ

げたり

月に濡れ夜露にぬれてマモン葉のジンクの屋根に

ふれて拾れ居り

甘蔗酒や南聖州の秋の夜

カリオカの背空よこれ天の川

ミサンガと星の岱も秋媚びる

村角力八百長くすれに秋媚びる

涼廟をこほろぎ一つ明け残る

螢みを引書の第も蟲の秋

アモネーラを覗けば虫の眼に

かまきりの闇志が草に構へり

カモネーラを覗けば虫の眼に

逢ひぬ

古靴は山とそぞりありといじ鳴

モモイロを覗けば虫の眼に

一カ木

月光をかがりに反古燒きて蒸死ぬとも人

は歎かじ

歌やめむ涙片掌にベンを把る己がすがたは疾くに

見ぬきぬ

歌やめむ世の憂きことものしみも内密に泣き忍

び笑ひて

歌やめむボルトゲースの自習書の尖れる文字にこ

ころ寄み

歌やめむ斯く思へどもさびしさにこころの井戸の

見ぬきぬ

歌やめむ十首 櫻井薰

歌やめむ御國のそとのつとめして故里おもう夜は

ありとも

歌やめむのちを捨てていくさするひとの手前も

耻と言ひ

歌やめむ川に砂金を飾ふこと光るものば求むれ

ど獲す

歌やめむ他人にこころの貧窮を示すことなどため

らはねども

歌やめむが歌無くも星辰光り太陽もかがやきて

天地は尾る今日をかぎりに反古燒きて蒸死ぬとも人

は歎かじ

歌やめむ涙片掌にベンを把る己がすがたは疾くに

見ぬきぬ

歌やめむ斯く思へどもさびしさにこころの井戸の

見ぬきぬ

歌やめむ十首 櫻井薰

歌やめむのちを捨てていくさするひとの手前も

耻と言ひ

歌やめむ川に砂金を飾ふこと光るものば求むれ

ど獲す

歌やめむ他人にこころの貧窮を示すことなどため

らはねども

歌やめむが歌無くも星辰光り太陽もかがやきて

天地は尾る今日をかぎりに反古燒きて蒸死ぬとも人

は歎かじ

歌やめむ涙片掌にベンを把る己がすがたは疾くに

見ぬきぬ

歌やめむ十首 櫻井薰

歌やめむのちを捨てていくさするひとの手前も

耻と言ひ

歌やめむ川に砂金を飾ふこと光るものば求むれ

ど獲す

歌やめむ他人にこころの貧窮を示すことなどため

らはねども

歌やめむが歌無くも星辰光り太陽もかがやきて

天地は尾る今日をかぎりに反古燒きて蒸死ぬとも人

は歎かじ

歌やめむ涙片掌にベンを把る己がすがたは疾くに

見ぬきぬ

歌やめむ十首 櫻井薰

歌やめむのちを捨てていくさするひとの手前も

耻と言ひ

歌やめむ川に砂金を飾ふこと光るものば求むれ

ど獲す

歌やめむ他人にこころの貧窮を示すことなどため

らはねども

歌やめむが歌無くも星辰光り太陽もかがやきて

天地は尾る今日をかぎりに反古燒きて蒸死ぬとも人

は歎かじ

歌やめむ涙片掌にベンを把る己がすがたは疾くに

見ぬきぬ

歌やめむ十首 櫻井薰

歌やめむのちを捨てていくさするひとの手前も

耻と言ひ

歌やめむ川に砂金を飾ふこと光るものば求むれ

ど獲す

歌やめむ他人にこころの貧窮を示すことなどため

らはねども

歌やめむが歌無くも星辰光り太陽もかがやきて

天地は尾る今日をかぎりに反古燒きて蒸死ぬとも人

は歎かじ

歌やめむ涙片掌にベンを把る己がすがたは疾くに

見ぬきぬ

歌やめむ十首 櫻井薰

歌やめむのちを捨てていくさするひとの手前も

耻と言ひ

歌やめむ川に砂金を飾ふこと光るものば求むれ

ど獲す

歌やめむ他人にこころの貧窮を示すことなどため

らはねども

歌やめむが歌無くも星辰光り太陽もかがやきて

天地は尾る今日をかぎりに反古燒きて蒸死ぬとも人

は歎かじ

歌やめむ涙片掌にベンを把る己がすがたは疾くに

見ぬきぬ

歌やめむ十首 櫻井薰

歌やめむのちを捨てていくさするひとの手前も

耻と言ひ

歌やめむ川に砂金を飾ふこと光るものば求むれ

ど獲す

歌やめむ他人にこころの貧窮を示すことなどため

らはねども

歌やめむが歌無くも星辰光り太陽もかがやきて

天地は尾る今日をかぎりに反古燒きて蒸死ぬとも人

は歎かじ

歌やめむ涙片掌にベンを把る己がすがたは疾くに

見ぬきぬ

歌やめむ十首 櫻井薰

歌やめむのちを捨てていくさするひとの手前も

耻と言ひ

歌やめむ川に砂金を飾ふこと光るものば求むれ

ど獲す

歌やめむ他人にこころの貧窮を示すことなどため

らはねども

歌やめむが歌無くも星辰光り太陽もかがやきて

天地は尾る今日をかぎりに反古燒きて蒸死ぬとも人

は歎かじ

歌やめむ涙片掌にベンを把る己がすがたは疾くに

見ぬきぬ

歌やめむ十首 櫻井薰

歌やめむのちを捨てていくさするひとの手前も

耻と言ひ

歌やめむ川に砂金を飾ふこと光るものば求むれ

ど獲す

歌やめむ他人にこころの貧窮を示すことなどため

らはねども

歌やめむが歌無くも星辰光り太陽もかがやきて

天地は尾る今日をかぎりに反古燒きて蒸死ぬとも人

は歎かじ

國家總動員法は議會を通過した
愈よとなつた場合、日本は心おきなく何日でも國
家總動員法を布けるのである
總動員法とは如何なるものか
去る二月二十八日、衆議院に於て、濱企創院總裁
が逐條説明したもの茲に掲げて在外邦人の参考
に供する事にする

總動員法

裁縫龍

奉祝天長節
中 村
バ スト

奉 奉 奉 奉

ノルゾウ
ラナ線ロン
長節
商
農產物貿易
ソロモン
コルコ
ンバウロバ
及ビ小間物
道面室
長節
田
八
野
雜貨

テ
ン
工
川
物
仲
買
織
ブ
・
ブル
イ
ド
リ
ー
ナ
一
九
三
〇
年
九
月
一
日

貞會テ
市街地五〇番
庄吾商店

奉 奉 奉 奉 上

原直 サントー 貴任有限ジコ
祝天皇 大谷問屋 鮮魚會商 宮天祝 天祝

長節

吉慶

大谷

長節

生産

一キアバ

ス市

勝

近藤 洗濯業
サントス市 フエイジ
電話

泰 奉 奉

潮 館 祝天 三 館 祝天 武 醫 祝天

主前木 長節 主小笠 長節 田士 長節

太郎 ル 反市 ル 信

成館主 大宇 売場
長天帆 料亭 天祝

古都功兵節浪長節

謝將の
ナドール・
ジョ街三二二
電話五二一
鮮魚問
ボオ街四番
郵函
山本商
鮮魚市場内
販賣部
バンカ

一 同 屋 十五番 三熊 店 七四一 家 五五番 一 館 義

Digitized by srujanika@gmail.com

旅繪文章

半田知雄

サンパウロ市からソロカバへまことに、夜行列車に乗つて、もう三時間でパリへ着くと思はれる頃、アグードスの手前あたりで夜は白みかける廣々とした牧場の果てに先づ地平線が廣がつてくる。そして、冷たい星空は、いつの間にか赤い星がかつて壯麗な濃紫に變つてゆく。

私はかつてブラジル人の画家の作品として最初に感激したボルチナリの繪を思ひ出す。あの地平線、あの深い空、ブラジルは大きい。ブラジルには美がある。その感動と誇りとを胸にひめて、運動的にこの國に永住することになつた自分に懐めを見出す。

旅先きで或る老人夫婦の家に二週間近くお世話をした。最初は老夫婦は私の未來を祝福してくれた。が段々日々がいつに従つて、私の生活がいつこう恵まれてゐないことに気がついた時この人たちは私の言葉が出來るんだから、いくらでもいい口がありませぬ。字は讀めるし、ブラジルの言葉が出來るんだから、早くお金を儲けて親御さんちを安心させるんだね。なんだ、悪いことは云はんかった。若い時は皆そうだが、しかし、年よりの云ふことには間違ひない、よく聞いて置いた。そして、やがておじとお母さんは永久にわざられないのである。淋しい氣持ではあつたが……☆

「よく精進してゐるね」と云はれることがある。私はうれしい。だがよく考へると、私の生活に精進と云ふ意味は、たゞ苦しいである自分をぶりきる時、こつこつと不景意の如く、「しつかり歌ひなさい」と注意されて、才能のない樂器の音にもかかわらず、作品は二通り遠いものに思はれる神に向美しくならないことがある。

人、その人こそよさしい精神と云ふ事が、私は可成りの感動にも等しい気持ちで日本に現れる。それはざんざんに思はれる神に向美しくならないものであるが、で日夜精進してゐる人がうらやましいことであらう!

美しい心と無意味な作品。我々はあまりに財寶の持つべき経験させられる。幼児の如くなつても、藝術の天國には達れないのが我々の悲しみだ。

奉祝天長節

製菓業

大阪屋菓子店

下津一郎

奉祝天長節

シンガーミシンバストス代理店

福田良三郎

能丸商店

奉祝天長節

パール、ソルベツテリア

佐藤福太郎

北御門商店

奉祝天長節

ソロ線ランシヤリア

奉祝天長節

石川織物吉田共營工場

佐藤福太郎

奉祝天長節

雜貨店、棉花仲買

京野鐵工場

佐藤福太郎

奉祝天長節

ソロ線ランシヤリア

吉田與三郎

佐藤福太郎

奉祝天長節

ソロ線ランシヤリア

奉祝天長節

佐藤福太郎

奉祝天長節

ソロ線ランシヤリア

朝日

岡田旅館

ソロ線ランシヤリア

吉浦秀次郎

バス製糸工場

バス市街地

奉祝天長節

ソロ線ランシヤリア

奉祝天長節

バス病院

奉祝天長節

ソロ線ランシヤリア

奉祝天長節

バス市街地

奉祝天長節

ソロ線ランシヤリア

節

長

天

祝

卷之三

A vertical column of five small black star icons.

10

☆ ☆ ☆

國策を彩る新研究二つ

岩から石綿の代用品

中西博士の輝く業績

A 保温や防音の必須材料である石綿の輸入杜絶に伴ひ火山國日本が無盡に抱きこんでゐる各種の水成岩に着眼、これまでのガラスよりも操作簡便でしかも驚くほど廉い石綿代用品としての岩石綿が完成され理論によつては「ガラスの洋服」どころか「岩石の洋服」も出来上らうといふこれはガラス織維工業界に投げかけられたトピック

トピック

内見當で生産し得るものと確信してゐます

これは

中西博士「談 ガラス綿二時間で燃え出来るうへ廿廿一百何分のいかといふ二、三百円見當で生産し得るものと確信してゐます

これは

トピック

内見當で生産し得るものと確信してゐます

これは

トピック

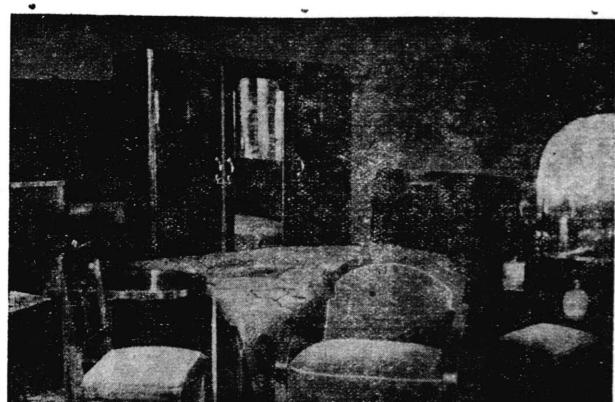
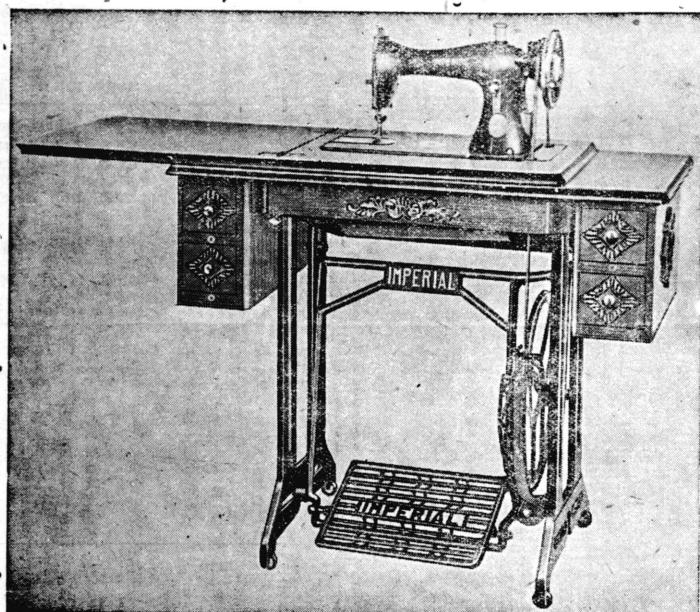
内見當で生産し得るものと

賞 懸 大 社 本

A vertical column of five small black stars, three on the left and two on the right, used as a decorative element.

A vertical column of five small, solid black stars used as a decorative element.

三等賞品
世界の壓倒的地位にある我國產品の粹
(伊藤善會製出)
インペリアルミシン
一台



品賞等二
組壹具家の出賣カシラブザーカ

(個壹拾等 筒 筒 鏡台 台寢)

すまえ癒され疲の日一だけだな見

昨年吾が一万二千の愛讀者の多大なる御好評と御後援の下に破天荒な大成功を修めたる本社抽籤大懸賞を本年又新なる計畫と方針とに依つて愛讀者諸彦の御家庭慰安を趣旨として四月一日より開始して居ります、何卒昨年に増して熱ある諸彦の御讚助を賜はらん事を切に懇願致します。

謹告

品 賞 等 一

すより居てつ待が命運と望希いしら新
地沃豊の城拾地住移スラバスレト拓ラブ



懸賞抽籤券規定

品賞等七等六

器音蓄シゴラル

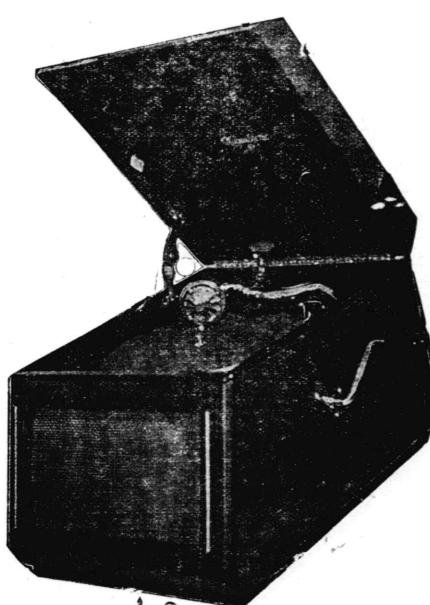
An advertisement for the Paragon Phonograph. The word "PARAGON" is written in large, bold, serif capital letters at the top right, with a decorative circular emblem containing a globe below it. On the left, there is Japanese text: "夜のとぼりが下りてランプの灯で 奏でるメロディーは！ パラゴン蓄音器に限ります" (The atmosphere of night falls, the lamp's light, the melody played! Limited to the Paragon Phonograph). A small, dark rectangular image of a phonograph is visible at the bottom right.



品賞等五等四

器音蓄クリニホナグマ

るれ流てつ乗に風微・をきゝとひの息休
すより限に器音蓄クツニホナグマ！はーデロメ



八等九等賞品 異的偉効を以て世間の信用を博す (加藤商會賣出) イ一治療器

